

宇宙の始まり 分かりやすく

弘大・浅田教授が解説本



重力波について説明する浅田教授



弘前大学大学院理工学研究科・浅田秀樹教授（理論宇宙物理学）は20日、自らが執筆した書籍「宇宙はいつに始まったのか」の写真を、科学を題材にする新

書シリーズ・ブルーバックス（講談社）から出版する。「ナノヘルツ重力波」という未知の宇宙の現象や観測方法、この現象から推測される宇宙の始まりについての仮説を一般向けに分かりやすく解説。浅田教授は「ナノヘルツ重力波の発見で、宇宙観測が新しい段階に達したことを知ってほしい」と話している。

重力波は物体が動くと周囲の空間がゆがみ、波のようには宇宙に広がっていく現象。2015年に初めて検出された。23年には極端に波長が長い「ナノヘルツ重力波」が検出された。太陽の数億倍の質量を持つ巨大ブラックホールの動きが原因と考えられているが、現在、正体は謎とされている。宇宙の始まりに関係しているという仮説もあり、活発に研究が進んでいる。

講談社によると、同書はナノヘルツ重力波を検出した新しい観測方法「パルサータイミング法」について、国内の書籍で初めて解説。アインシュタインの一般相対性理論やブラックホールとは何か、などについても解説している。数式をほとんど用いず、高校生や文系の人でも読み進められるように工夫をしている。

浅田教授が同シリーズから出版したのは2冊目で、「自分の研究や最先端科学の話題についての本を出すことは社会への貢献になるのではないか」と思っており、今回の出版はとてもうれしい」と語った。

「宇宙はいつに始まったのか」は税抜き千円で全国の書店で扱う。

（菅井大輔）

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

【問合せ先】弘前大学理工学研究科 E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp